

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、このところ弱めの動きとなっている。

前回の概況公表時（3月上旬）以降の県内景気を見ると、労働需給は全体としては引き締まった状態が続いており、雇用者所得も緩やかな増加基調にある。個人消費は弱めの動きとなっており、観光は減少している。公共投資は増加している。設備投資は横ばい圏内の動きとなっており、住宅投資は増加の動きが一服している。製造業の生産は足もと弱めの動きがみられている。

この間、企業の業況感は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などから、悪化している。

先行きについては、当面、弱めの動きが続くと考えられる。特に、①新型コロナウイルス感染症拡大の帰趨やそれが内外経済へ与える影響、②人手不足の影響、③これらを踏まえた企業・家計の中長期的な成長期待等の影響について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、増加している。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、3月（20/3月前年比：+6.6%）、年度初来累計額（3月までの累計、前年比：+17.0%）ともに、前年を上回った。また、公共工事の出来高も増加しているとみられる。

設備投資は、横ばい圏内の動きとなっている。

2019年度の設備投資額（20/3月短観）は、製造業・非製造業のいずれも前年度比減少の計画（全産業前年度比：▲10.2%＜新ベース¹>）。

2020年度の設備投資額は、非製造業が前年を上回るものの、製造業が前年を下回ることから、全体では前年を幾分下回る計画となっている（同：▲5.3%＜同>）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備（20/3月短観）は、小幅の過剰超となっている（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>、19/12月：▲3 →20/3月：+2 <旧ベース>）。

¹ 短観については、2019年12月調査の対象企業のみを集計値を「旧ベース」、新たな調査先を加えた全対象企業を集計値を「新ベース」としている。詳細は『全国企業短期経済観測調査（高知県分）』対象企業の追加について（2020.4.1）を参照。

個人消費は、新型コロナウイルス感染症の影響から、弱めの動きとなっている。

大型小売店²の販売動向は、業態によって強弱がみられている。コンビニエンスストア売上高、家電量販店販売額は、足もと弱めの動きがみられている。乗用車新車登録台数（20/2月前年比：▲14.7%）は、弱めの動きがみられている。旅行取扱高は、大幅に減少している。

観光は、新型コロナウイルス感染症の影響から、減少している。

2月の県内の主要観光施設への入込客数（20/2月前年比：+14.3%＜速報値＞）、主要旅館・ホテルの宿泊客数（同：+1.1%）は、ともに前年を上回ったものの、3月以降は減少に転じている。

住宅投資は、増加の動きが一服している。

新設住宅着工戸数をみると、分譲を中心に前年を下回った（20/2月前年比：▲0.4%）。

2. 生産

製造業の生産は、新型コロナウイルス感染症の影響から、足もと弱めの動きがみられている。

機械は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては増加傾向にある。食料品は、外出控えの影響などから、弱めの動きが広がっている。窯業・土石製品は、一部に弱めの動きが続いているものの、全体としては下げ止まっている。パルプ・紙・紙加工品は、横ばい圏内で推移している。鉄鋼は、減少している。

3. 雇用・所得

労働需給は、全体としては引き締まった状態が続いている。

有効求人倍率は、高い水準にある（20/2月：1.19倍）。常用労働者数は、前年を下回った（20/1月前年比：▲1.1%＜速報値＞）。この間、企業からみた雇用人員（20/3月短観）は、不足感が強い状態が続いている（雇用人員判断D. I. ＜「過剰」－「不足」＞、19/12月：▲29→20/3月：▲24＜旧ベース＞）。

雇用者所得は、緩やかな増加基調にある。

1人当りの現金給与総額は、均してみれば緩やかな増加基調にある（20/1月前年比：+4.4%＜速報値＞）。こうしたもとで、常用労働者数と1人当りの現金給与総額の積として表される雇用者所得は、緩やかな増加基調にある。

² 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

4. 物価

消費者物価は、前年並みとなっている。

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、教育無償化政策等の影響により諸雑費や教育が前年を下回った一方で、消費税率引上げなどにより食料（除く生鮮）を中心に前年を上回ったことから、全体では前年並みとなった（20/2月前年比：+0.1%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（20/3月：倒産件数2件<前年6件>、負債総額130百万円<同474百万円>）。

6. 金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、個人預金や法人預金の増加から、前年を上回っている（20/2月末残前年比：+2.9%）。

貸出（同）は、地公体向けや個人向けを中心に前年を上回っている（同：+1.3%）。

貸出約定平均金利（銀行）は、低下している（20/2月：1.308%）。

以 上

【本文中の使用計数などの出所】

- 乗用車新車登録台数：四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数：国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額：西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率：厚生労働省「一般職業紹介状況」、常用労働者数・現金給与総額・雇用者所得：高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「倒産月報」。
- その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- なお、利用統計は公表月によって異なる。